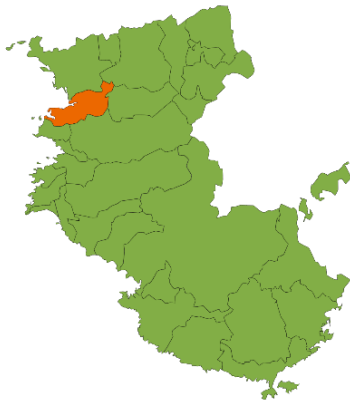


和歌山県海南市

交流・関係人口増を目指した エリア体験型観光コンテンツ開発



【地域の基礎データ】

人口：47,514 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：36.6%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：製造業、家庭日用品産業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：6 名（1 回生：3 名、2 回生：3 名）

活動期間：令和 2 年 6 月～

担当教員：藤田武弘

1. 活動実施の経緯

下津町大崎地区に「げんき大崎館・かざまち」が設置（H27 年）されて以来、毎週土曜日の「朝市（新鮮な地元農水産物と地元原料に拘った手作りのお惣菜等を販売）」や各種体験交流イベントの開催など、地域内経済の循環をはじめ地区内外の住民にとって貴重な交流の場を提供してきた。しかし、著しい高齢化の進行により、交流人口・関係人口を増やすことが急務であるとの認識から、大学生など「よそ者・若者」の目線から地域の資源を再発見することの必要を痛感し、LIP 参加学生と協働でのプロジェクトの立ち上げを企画した。

2. 活動の内容

コロナ禍で学生の対面型での活動が大きく制約を受ける中、現地事務局（地域おこし協力隊員）とのオンラインでのミーティングを積み重ね、コロナ収束後の域学連携活動の再開に向けた観光学部学生を対象とした大崎地区の取り組みに対する認知度アンケート調査（Web）を実施し、その結果を現地パネル展示等の手法で地域還元した。また、朝市等の訪問客を対象とする地域資源の魅力に対するアンケート調査票（コロナ禍でも実施可能な留め置き回収方式）を作成した。また、感染拡大が収束状況にあった秋口に現地訪問が実現し、学生と地域住民との交流機会がようやく確保された。

3. 活動を通じて

複数年度での活動提案とはいえ、コロナ禍により 2 年に及ぶ活動制約期間があったことの影響は大きい。オンラインでの意見交換を駆使して現地受入事務局との密度の濃い意見交換が行われていることから、最終年度に向けた活動のまとめに期待したいところである。

4. 成果物（ポスター）



【基本情報】

～海南市～

海南市は和歌山県の北西部沿岸に位置する人口約5万人の市です。

～活動状況～

私たちは海南市の中でも北西にある大崎地区を主な活動地としています。今年は感染拡大防止のため現地へ行くことはほとんどできませんでしたが、山と海に囲まれた自然豊かな地域です。奥まった港や山道を抜けた先にある小さな街並みは思わず写真に収めたくなるほど魅力的です。

～活動メンバー～

2年生3人、1年生3人の計6人で活動しています。

【活動目的】

- 大崎地区を知り、げんき大崎の方と交流を深める
- アンケートにより学生層の需要を理解する
- 交流・関係人口増を目指すための知識を深める

【活動内容】



活動開始

6月

オンラインアンケート

10月・11月

現地訪問

11月

地域のイベントに参加

12月

対面アンケート作成

【活動成果】

- ・地域資源を使って今後行いたい企画が明確になった
Ex)無人島を使ってのキャンプイベント
- ・細かな意見と情報を得ることができた
高齢者から子供まで様々な層が利用していること、
そして、多様なニーズを見出していること
- ・地域の文化祭（展示会）で大崎の人々の“くらし”を知ると同時に、より多くの人に私たちの活動を知ってもらうことができた

【今後の目標】

- ・アンケートを生かしたイベントを企画する
- ・大崎地区の魅力を発信し、より多くの人に知ってもらう
- ・地域の方々との交流を深める